

《注意》字数制限のある問題では、句読点や記号も一字として数えることとします。

「一」次の一線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ①工場が稼働する。
- ②語弊のある言い方を避ける。
- ③相手の承諾を得る。
- ④良い匂いが漂う。
- ⑤軽率な発言を戒める。
- ⑥感動の瞬間をサツエイする。
- ⑦本をショウカイする。
- ⑧梨をシュウカクする。
- ⑨隣の国とドウメイを結ぶ。
- ⑩最新のセツビを持つ。
- ⑪ギセイをいとわない。
- ⑫才能をミガク。
- ⑬メズラしい生き物を観察する。
- ⑭彼はニクめない性格だ。
- ⑮異国の文化にアコガれる。

「二」次の問題文を読んで後の問いに答えなさい。

一 長らく、感情は理性と対立する概念だった。感情は身体に寄り添う情動で、衝動や欲望に強く結びついている。①これに
 対して、②理性は、自他の意識を前提に物事の③道理をわきまえて判断する高次の知的作用で、人間だけが生みだした精神の営
 みとされた。両者はしばしば拮抗し、感情の急激な高まりは理性の働きを阻害する。その葛藤を克服し、理性によって感情を
 コントロールすることが、社会人となるために必要であると考えられてきた。

二 しかし、感情と理性は常に対立するものではない。A④理性を働かせるために感情が必要となる場合が多い。
 B プラットホームで電車を待つ列にならんでいると、割りこんでくる人に対し無性に怒りがこみ上げて注意してしま
 う。理不尽な政策に抗議したいと思いつつながら行動に出ることをちゅうちょしていたとき、(注)シユプレヒコールに背中を押さ
 れて街頭デモに加わる。⑤これらの感情は、他者の行いに気を配らずに自分勝手に行動する者へ怒り、自分の想いを他者と同
 調させて実現したいという欲求によって生まれる。それは人が社会的に生きるために不可欠な心の動きだ。

三 サルや類人猿の行動を見ると、人間の理性は感情の進化の上に思考という心の働きが加わって生まれてきたことが
 わかる。サルは仲間の態度に敏感に反応する。仲間が悲鳴をあげれば、何をめぐってだれとトラブルがあるかを理解する。そ
 して、そこに介入するかどうかを判断するのだ。当事者がどちらも自分と親しくなければ、あるいは自分より強ければ介入し
 ない。親しければ加勢するが、強いほうの味方になることが多い。サルはいつも、どの仲間が強いか弱いかを知っていて、強
 いサルに加勢してトラブルを抑えようとするのである。

四 C、ゴリラやチンパンジーだと、どちらか一方に加勢するよりもトラブルそのものを抑えようとする。ゴリラは
 攻撃したほうをいさめるし、当事者より小さいゴリラが介入することもある。チンパンジーもよくけんかに割りこんで仲裁す
 るし、傷ついた者を抱いてなぐさめる。これはゴリラが体の大きさとかわれずに、互いに対等でありたいという気持ちを、
 チンパンジーはトラブルが広がることをおそれる気持ちを強くもっているからだ。その基本的な感情がもとになって彼らの社
 会はつくられている。

五 人間も類人猿たちと同じような感情をもっている。弱い者を助けたいし、不公平には憤る。他者のトラブルに敏感なのは、
 人間が同調しやすく、自分が巻きこまれることを期待したりおそれたりするからだ。人間は身近に起こった他者のトラブルを
 放っておけない。自分の行為が正しいか間違っているかを考える前に、すでにそのトラブルに巻きこまれていることが多い。
 早急決断を求められているときに複数の選択肢があれば、自分の感情のおもむくほうにかじを切ってしまうことがよくある。
 理性はその行動に後で理由をつけるにすぎないことだ。理性は後で理由をつけるにすぎないことだ。

六 サルも類人猿も人間も、視覚によって物事を判断する。見たことが事実であるし、不明なことを見て確かめようとする。
 D、⑦見られているときとそうでないときとは、同じ人間でも行為を変えることがある。道徳はまず、人に見ら
 れているときの行為を教える。その規範を内面化し、人に見られていなくても行うようになるのが社会人の条件で、そ
 れが理性の源泉になるのだ。

七 しかし、昨今の生活状況の変化は見られる機会や意味を減らし、⑧感情に重きを置いた行為を選択させているように見え
 る。窓を閉め切った家で、冷暖房の効いた快適な暮らしを営む一方、近所の人々とのつき合いはなくなった。朝出かけるとき
 も夕方帰宅するときも、人とあいさつすることさえ少なくなった。インターネットのおかげで自由に情報にアクセスできるの

で、だれにも相談せずに知識を得たり判断したりできるようになった。他者を否定することも肯定することも、自分ひとりの判断で行えるようになった。それは他者の存在を考慮せず、自分の感情のおもむくままに行動する傾向を助長してしまう。**八** かつて感情は理性の働きを助け、行為を発動させるエンジンの役割を果たしていた。今それは、社会の実感をともなわず、自らの身体に忠実に動くように人々を駆り立てている。スポーツに熱狂し、コンサートホールに出かけ、両手を突き上げて踊る姿は、他の人々と心や体を同調させることがどんなに楽しいかを教えてくれる。現代はそういった感情の表出が可能な時代なのだ。しかし、日々の感情の高まりが本場に社会に生かされているだろうか。「アラブの春」は、悪政に抗議する人々が一斉に感情を爆発させて政府を倒した事件だった。ところが、その後彼らの求めるような政府が樹立されたとは思えない。今その感情がどのような社会の実現によって満たされるかが問われている。たやすい道ではない。現代の **X** の生活意識を変えずして実現することはできないと思う。

（山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』より。）

注 シュプレヒコール：集会やデモなどで、参加者がいっせいに主張や思想を唱えること。

問一 ― 線部①「これ」とありますが、何を指していますか。二字で答えなさい。

問二 ― 線部②「理性」とありますが、理性はどのようにして生まれたと筆者は述べていますか。問題文中から三十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 ― 線部③「道理」の意味として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
ア、そうあるべきである正しい筋道。 イ、目的地までの正しい道順。 ウ、当然理解するべき絶対的なルール。
エ、物が作られていく過程。 オ、年功序列制度などの上下関係。

問四

A	B	C	D
---	---	---	---

 に入る語として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。
ア、ところが イ、むしろ ウ、たとえば エ、だから オ、つまり

問五 ― 線部④「理性を働かせるために感情が必要となる」とありますが、このことと同じことを述べている一文を段落**七**以降から四十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問六 ― 線部⑤「これらの感情」とありますが、筆者はそれらについてどのように述べていますか。問題文中から二十字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問七 ― 線部⑥「サルや類人猿の行動」とありますが、筆者はそれをどのように説明していますか。その説明として誤っているものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。
ア、ゴリラやチンパンジーはトラブルそのものを抑えようとしており、そのような気持ちが彼らの社会の基盤になっている。
イ、サルは普段から仲間の力量を知っており、トラブルが起きた時は、その構造に注目し、自分との関係性や立場の上下で介入するかしないかを判断する。
ウ、ゴリラは体の大きさに関係なく攻撃した方をいさめる。それはゴリラが互いに対等でありたいという気持ちを持っているからである。
エ、チンパンジーはトラブルが広がることをおそれる気持ちを持っており、けんかの仲裁をしたり、弱者のケアに努めている。

オ、サルは仲間の態度に敏感に反応することが知られており、それはサルが同調しやすく、自分が巻き込まれることを察知するからである。

問八 ― 線部⑦「見られているときとそうでないときでは、同じ人間でも行為を変えることがある」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
ア、社会人になれば、見られている時だけを評価されることになるので、見られていない時は自分の行為を気にしなくて

も良いから。
イ、人間は視覚で物事を判断するので、他者に見られていなければ自らの行為の事実は誰も知ったり評価したりすることができないから。

ウ、見られていようがいなからうが、自分を満たすためには感情のおもむくままに行動することが望ましいとされる時代になったから。

エ、トラブルに巻き込まれた時は、自分をどう見せるかが大切であり、その見られ方によって自分の立場が大きく変わるから。

オ、規範を意識するあまり、見られている時のストレスがたまっている社会人が多く、見られていない時に感情のままに行動してしまうから。

問九 線部⑧「感情に重きを置いた行為を選択させているように見える」とありますが、筆者にはなぜそのように見えているのですか。その理由を述べている部分を、解答欄に続く形で問題文から四十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問十 Xに入る言葉として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
ア、事なかれ主義 イ、経済優先 ウ、政治的信念 エ、個人重視 オ、合理的判断

〔三〕次の問題文を読んで後の問いに答えなさい。
三重県神去村の中村林業株式会社に就職した「俺」は、同じ会社の「清一さん」や「ヨキ」に仕事を教えてもらいながら林業の世界を知っていく。ある日、神去村で山火事が起こり、その日からヨキの飼犬・ノコがえさのドッグフードを食べなくなった。心配した「俺」は清一さんとヨキに相談する。

「さ、配置につけ」
と清一さんは家屋の陰に隠れた。俺は（注1）山太とともに、清一さんのあとにつづく。

ヨキは庭に取り残された。ヨキがいることはわかっているはずなのに、ノコはあいかわらず顔を上げない。
「えー、ゴホン」

ヨキが①わざとらしく咳払いした。「おや？ 薪が崩れそうやな。どら、ちょっと積み直すか」
陰から覗き見ていた俺と山太は、ヨキのあまりの大根役者ぶりに、顔を見合わせてくすくす笑った。ヨキはノコのまえを横切り、軒下の薪に手を伸ばす。

「うわあ！」
ドサドサドサツと盛大に薪の山が崩れた。正確に言うと、ヨキが引き倒したんだけど。ヨキはなだれる薪と一緒に、庭に倒れ伏した。異変を察知したノコが、さすがになにごとかと立ちあがった。

「助けてくれー」
散乱した薪を何本か腹に載せ、ヨキは力なくうめいた。「動けん、助けてくれノコ！」
忠実なノコは、小走りにヨキに近づいた。鼻先でヨキの腕を押す。しかしヨキは起きあがらない。

「あかん、このままだと死ぬうう」
瀕死の昆虫みたいにもがいて、ノコに訴える。「だれか呼んでくるんや」
ノコはとまどったように、倒れたヨキのまわりをうろうろした。ヨキの作業着をくわえて引っぱり、ヨキの頬をなめた。それから突然、嵐のように激しく吠えはじめた。

ふだんのノコは、めったに鳴かない。山太に耳をつままれても、尻尾をつかまれても、おとなしくされるがままだ。なのに、主人のヨキが窮地に陥ったとたん、まさに②犬が変わったようになった。

痛切な声で必死に、「急を報せなきゃ」と吠えつつづけるノコの姿に、俺は胸を打たれた。ノコがいじらしく思えたのか、ヨキも③段取りを無視して、「おい、ノコ。そないに吠えんでも」と、あたふたしだした。
「そろそろいいだろう」

清一さんがヨキとノコのほうへ足を踏みだそうとしたそのとき、玄関の引き戸が勢いよく開いて、家のなかから（注2）みきさんが飛びだしてきた。

問二 ― 線部② 「犬が変わったようになった」とありますが、これはノコのどのような様子を表したのですか。説明しなさい。

問三 ― 線部③ 「段取りを無視して」とありますが、本来の「段取り」ではどのような予定だったのですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
ア、窮地に陥ったヨキを助けを求められたノコの働きにより「俺」や清一さんがヨキを助けることに成功する。そのことによってノコの「山の班員」としての面目躍如となり、ノコの自信が回復するというもの。
イ、生命の危機に瀕したヨキがノコを通じてみきさんに助けを求め、みきさんの手によってヨキは救出される。そのことによって夫婦の危機を救った「忠犬」として本領を発揮し、家族の中で地位を確立させるもの。
ウ、山火事の日を彷彿とさせる事件をノコに経験させ、今度こそあの日助けられなかった主人を助けさせる。そのことによってノコの「役立たず」という負い目を心機一転させ、過去の呪縛から解放しようとしたもの。
エ、倒れた主人を見たノコが山火事当日を思い出し、ニックに陥ったところで、みきさんが救助に加わりヨキの救出に成功する。そのことによってノコに孤独ではなく「班の一員」であることを再認識させ、戦意高揚を促すもの。
オ、窮地に陥ったヨキを清一さんと「俺」がわざと見捨てる演技をすることで、主人を救えるのは自分しかいないとノコの責任感を強める。そのことによって山火事にも立ち向かう勇氣ある「忠犬」に成長させようとするもの。

問四 ― 線部④ 「まずくないか」とありますが、何が「まずい」のですか。五十字程度で説明しなさい。

問五 ― 線部⑤ 「犬であっても誇りを持つてるんだなあ」とありますが、「誇り」とはどのような気持ちですか。解答欄に続く形で問題文から抜き出して答えなさい。

問六 ⑥ に当てはまる四字熟語として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
ア、以心伝心 イ、因果応報 ウ、一石二鳥 エ、意気揚々 オ、遺憾千万

問七 ― 線部⑦ 「まんざらでもなさそうな」とありますが、この時のヨキの気持ちとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア、危険な行動を取った軽率さを怒られたが、それがみきのためを思ったの行動だったとわかってもらえほっとしている。
イ、思いがけずみきに大切に思われていることを確認できたことで、怒られながらも嬉しさがにじみ出してしまっている。
ウ、元気がなかったノコの自信を取り戻させることに成功し、一家の大黒柱として面目を保てたことに得意になっている。
エ、ノコとみきが瀕死の自分を助けようとしてくれたことで、自分が山仕事の班員として認められた喜びにひたっている。
オ、ノコとみきを欺くという重要な役割を見事に果たし、清一の期待に応えることが出来た事の達成感をかみしめている。

問八 ― 線部⑧ 「悠然と…群れ飛んでいる」とありますが、この風景描写が表すものとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア、雄大な神去山と村の豊かな自然を描写することで、そこに住む人々のおおらかな優しさと実直な生き方を表している。
イ、神の名を持つ神去山の神々しさや偉大さを描写することで、その中で小さなことに一喜一憂する人間たちの滑稽さを際立たせている。
ウ、赤く色づく神去山や金の稲穂で深まりゆく秋を描写することで、その後に来る冬を連想させ徐々に衰退していく村の未来を暗示している。
エ、葉が落ち始める山と実り多い田んぼを対比的に描くことで、火事で山を失いながらも復興を果たした人間の力強さを印象付けている。
オ、赤く染まる神去山や赤とんぼなど「赤」を印象付ける描写をすることで、再び山火事が起こる可能性を示唆している。

問九 問題文から読み取れる人物像を説明したものととして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。
ア、「清一さん」は常に周囲に目を配りながら冷静に物事を判断し周囲を導いていくが、時として非情な手段を用いる冷徹さも持ち合わせている。

イ、「ヨキ」は自分が班の一員として周囲に認められていないことを負い目に感じる一方で、なんとか汚名を返上しよう

とする真摯さも見る事が出来る。

ウ、「山太」は年齢の割に大人びた考え方を持っており、ノコに対しても主体的に行動を起こすなど周囲の大人たちと同等の働きかけをしている。

エ、「みきさん」はさっぱりとした性格を感じさせるが、同時に夫のヨキや飼犬のノコに対する愛情などから情の深い人物であることが窺える。

オ、「俺」は林業やそれを生業としている同僚を軽蔑していたが、ノコが命懸けで山を守ろうとする姿を見て自らの浅慮を反省するなど思慮深さがある。

〔四〕次の問いに答えなさい。

問一 次の文の――線部の品詞として最も適当なものを後のア～コからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 いつもは公園で遊びます。
- 2 山の景色は素晴らしかった。
- 3 妹はいつも兄と遊びたがる。
- 4 約束の場所へ行った。しかし、友だちの姿はなかった。
- 5 彼女はとても才能のある人です。

- ア、名詞 イ、動詞 ウ、形容詞 エ、形容動詞 オ、副詞
 カ、連体詞 キ、接続詞 ク、感動詞 ケ、助詞 コ、助動詞

問二 次の文の主語・述語を――線部①～②から一つずつ選び、それぞれ数字で答えなさい。

① ストラスブルと ② ともに ③ 都市再生に ④ 成功した ⑤ 都市と ⑥ して ⑦ 並び称される ⑧ スペインの ⑨ ビルバオも、
 ⑩ 汚染された ⑪ 水質の ⑫ 浄化と ⑬ いう ⑭ 自然環境の ⑮ 再生と ⑯ ともに、 ⑰ 伝統的な ⑱ バスクの ⑲ 文化を ⑳ 再生する。

（神野直彦『地域再生の経済学』より。設問の都合上、一部表現を改変しています。）

問三 ①の類義語、②の対義語として適当なものを後のア～オから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 寄与（類義語を答える） ② 保守（対義語を答える）
 ア、受容 イ、貢献 ウ、一般 エ、革新 オ、侵攻

問四 次の――線部の漢字として適当なものを（ ）内のア～オから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 昔を思い出しカシヨウにひたる。
 （ア、鑑賞 イ、觀賞 ウ、感傷 エ、干渉 オ、緩衝）
 ② 秀でた才能を目の当たりにし、キョウイの目をみはる。
 （ア、脅威 イ、驚異 ウ、強意 エ、胸囲 オ、教委）

国語 解答用紙

得点

受験番号

内には何も書かないこと

〔一〕				
⑬	⑩	⑦	④	①
珍	設備	紹介	ただよ	かどう
しい			う	
⑭	⑪	⑧	⑤	②
憎	犠牲	収穫	いまし	ごへい
めない			める	
⑮	⑫	⑨	⑥	③
憧	磨	同盟	撮影	しょうだく
れる	く			

〔二〕									
問十	問九	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	
エ	他	オ	人	か	A	ア	感	感	
	者		が	っ	イ		情	情	
	を	問八	社	て	B		の		
	否	イ	会	感	ウ		進		
	定		的	情			化		
	く		く	く	C		く		
	う		な	し	ア		ま		
	に		心	て	D		れ		
	な		の	い	エ		て		
	っ		動	た			き		
	た		き	。			た		
	から								

〔三〕					
問六	問五	問四		問三	問二
ウ		と	に	み	オ
		思	、	き	
問七	班	い	み	に	ア
イ	の一員だと自負する	大事	大き	芝	
問八		に	本	を	
ア		な	気	打	
問九		り	で	っ	
エ		そ	ヨ	こ	
		う	キ	と	
		な	が	を	
		事	死	言	
	気持ち。	。	に	い	
			か	忘	
			け	れ	
			て	た	
			い	た	
			る	め	

普段どのような状況でも鳴かないノコが、
窮地に陥った主人のヨキを助けようと
嵐のように激しく吠えはじめた様子。

〔四〕			
問四	問三	問二	問一
①	①	主語	1
ウ	イ	⑨	イ
②	②	述語	2
イ	エ	⑳	ウ
			3
			コ
			4
			キ
			5
			ア